

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2010・10 vol.409

●発行者—学長 小川 彰 ●題字—理事長 大堀 勉



歯科衛生専門学校戴帽式 (撮影日：10月2日・関連記事：P4)

おもな内容

- 特集 先端医療薬学研究センターの目的 先端医療薬学研究センター長 前田 正知
- トピックス アイバンク街頭 PR が行われる
- 表彰の栄誉 岩手県から感謝状が贈呈される
- 平成23年度入学試験日程
- 矢巾町近隣の自然散策めぐり

特集

先端医療薬学研究センターの目的



先端医療薬学研究センター長
薬学部分子生物薬学講座教授

前田正知

センター発足の経緯

薬学の研究は、有機化学、生化学、分子生物学等の基礎科学、創薬を目的とする医薬品開発科学、医療現場における臨床薬学や薬剤学など、諸学問分野に支えられています。それらの学問の進歩は日々目覚ましく、教員が個々の分野に閉じこもっていることができない状況になっているのが実情です。これに対応し、ユニークなアイデアを産み出し、流動的に融合可能な研究環境を提供するのが先端医療薬学研究センターです。薬学部教員がセンターのプロジェクト研究に参加し、国際的に評価される研究を行う中で卒業研究を指導すれば、学生が重要課題を自ら発見し解決するという能力も育てやすいはずです。センターは薬学部開設と同時に提案され、理事会の承認を受け、文部科学省への申請書にも明示されました。本センターは岩手医科大学の共同研究部門として、平成20年4月に設置されました。



センターの風景

プロジェクト研究の推進

センターには医薬探索創薬研究部門と臨床薬学研究部門の二つの研究部門を置き（図1）、それぞれに薬学に期待されている主要な研究プロジェクトを設定しています。医薬探索創薬研究部門には、感染症、生活習慣病、がん、高次生命機能、創薬基盤薬学の5プロジェクトが、臨床薬学研究部門には、薬物疫学、地域薬学、医薬品情報解析・医療薬学の3つのプロジェクトが進行しています。薬学部を構成する講座教員が、得意とする学問・研究領域を基盤に関連プロジェクトに参画し、講座の枠を超えた共同研究を推進しつつ、プロジェクトの効果的展開を図っています。本学は医療系総合大学として医学部・歯学部との連携を密にしているところが特徴ですので、研究面での連携体制も今後大いに推進していく必要があると考えています。

センター主催の講演会等

1. 発足記念シンポジウム
(平成21年3月14日開催)
2. 薬学部講座共同研究報告会
(平成20年11月28日開催)
(平成22年2月22日開催)
3. 地域連携講演会
(平成22年2月19日開催)
(平成22年2月25日開催)
4. その他シンポジウム
(平成21年1月16日開催)
(平成22年5月18日開催)

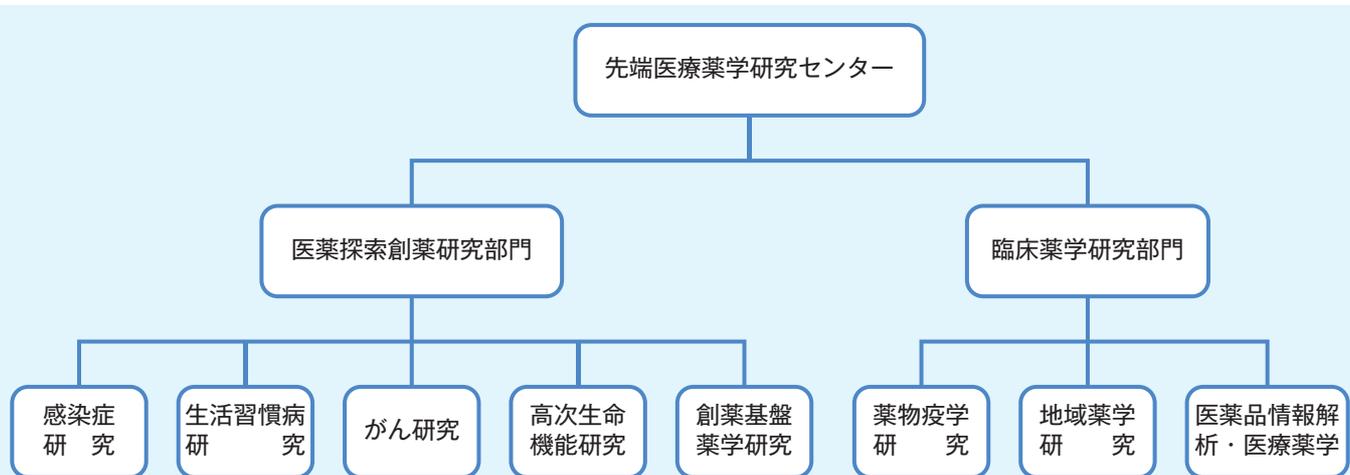


図1 センター組織

センターの発展に向けて

センターの目的は先端医療薬学
研究の推進にあります。図2に
示しているような多くの波及効果
も期待しています。産官学の連携
による医薬品開発やバイオ技術の
創出、薬学の基盤研究の推進は当
然として、研究心を持つ薬剤師の
育成、学生プロジェクト研究へ
の参加と起業精神の醸成、さら
には薬剤師のキャリアアップにも
貢献することを視野に入っていま
す。センターの発展により、研究
成果の発表や知的財産の創出はも
ちろん、地域連携と社会連携の核
となることが期待されますので、
ご支援賜りますようどうぞよろし
くお願いいたします。

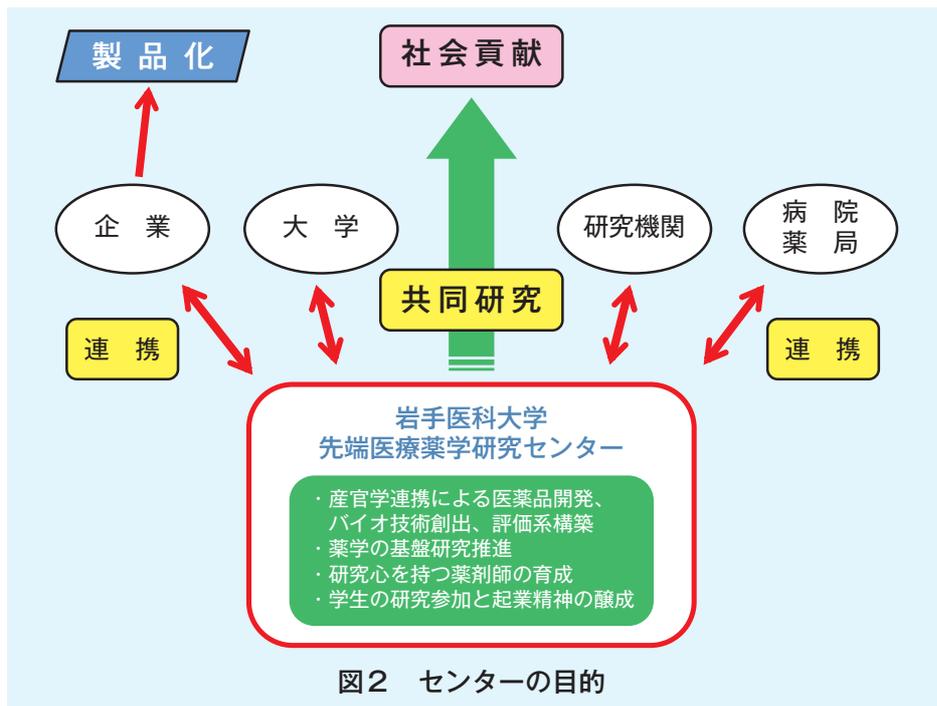


図2 センターの目的

省エネ推進委員会だより

今回は、地球温暖化防止に向けた国内の取組みについて紹介します。

カーボンフットプリント制度

「カーボンフットプリント」とは、
直訳すると「炭素の足跡」。私達の
生活を支える製品が、原料調達段階
から廃棄・リサイクル段階までに排
出される CO₂の総量を表示してい
ます。

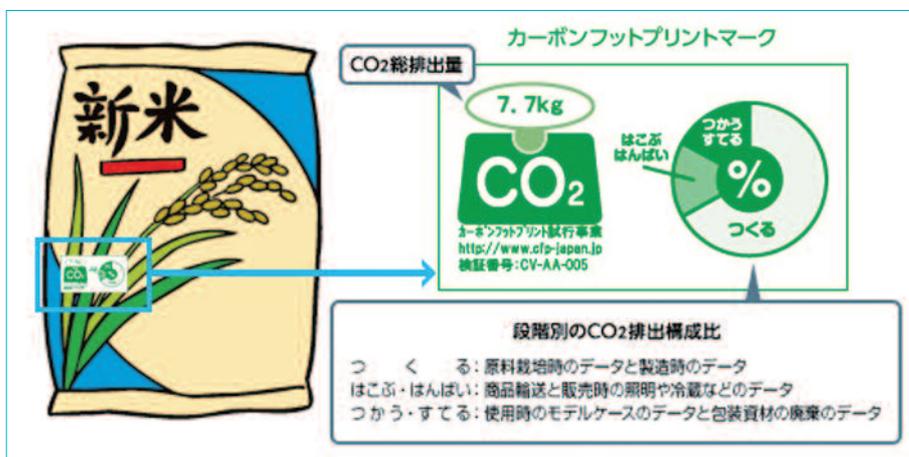
どの過程でどの程度排出されるか、CO₂排出量の可視化による削減啓発を目的としています。



カーボンフットプリントマーク

日本では、昨年4月からカーボン
フットプリント制度の試験導入が始
まっており、現時点で77製品が登録
され、うち36件が認定されています。
マークは「はかり」をモチーフにし
たものでそこに CO₂総排出量を表示
しています。

他に、円グラフで CO₂排出量構
成比も表示する商品もあります。



私達がこのマークを見て CO₂ 排出量の少ない商品を選んだり、地産地消を普及させることで流通時に排出される CO₂ を削減することも可能です。商品を選ぶ時にも「エコ」してみませんか。

アイバンク街頭 PR が行われる



9月4日(土)午後1時から、イオン盛岡南ショッピングセンターにてアイバンクの街頭 PR が行われました。

この街頭 PR は、アイバンクへの登録推進運動の一環として昭和55年から毎年行われているものです。

当日は、PR ポスターやパネル展示のスペースが設けられ、本学教職員、関係団体の方々約30人が1,500枚のパフレット等を配布し、アイバンクへの登録を呼びかけました。

アイバンクの機能を十分に発揮するためには、多くの角膜提供登録が必要であり、本学でも約50名の方々が角膜移植を待ち望んでいます。

登録をご希望の方は、本学病院事務部医務課内のアイバンク事務局（内線3122）までお問い合わせください。

病院対抗球技大会で本学チームが好成績を収める

9月5日(日)、盛岡地区23病院による第36回盛岡地区病院対抗球技大会が盛岡市立高校で開催され、本学はソフトボール、卓球、バレーボールの3種目に参加しました。

本学は例年輝かしい成績を収めており、その活躍が期待される中で、ソフトボールチームが3年連続の優勝、卓球チームが優勝、バレーボールチームが準優勝と輝かしい成績を収めました。会場には、たくさんの本学教職員が応援につめかけ、熱戦を繰り広げる選手達に声援を送っていました。



ソフトボールチーム

※卓球チームでは、現在部員を募集しています。経験は問いませんので興味のある方は医事課入院係石島（内線3620）までご連絡ください。



卓球チーム



バレーボールチーム

歯科衛生専門学校戴帽式が行われる

10月2日(土)午前11時から本学歯科衛生専門学校4階講堂で平成22年度の戴帽式が行われました。戴帽式は、これから1年生が臨床実習を行うにあたり、医療人としての心構えや責任感を自覚し決意を新たにすることで、今年度は42名が式に臨みました。

式では、戴帽生の呼名に続き、教務主任から一人ひとりにキャップがのせられ、壇上の戴帽生全員で誓いのことばが唱和されました。厳かな空気が満ちる中、戴帽生を代表して宮川ひかるさんが謝辞を述べ、新たな決意を胸に歯科衛生士への第一歩を踏み出すことを誓いました。



表彰の栄誉

岩手県から感謝状が贈呈される

9月21日(火)、岩手県庁知事室において、本学講座等による学会等の召致実績が永年にわたり岩手県コンベンション誘致に尽力したとして、岩手県から本学へ感謝状が贈呈されました。「コンベンション」とは、国内外の人達が行う各種大会や会議などの催しを指す用語で、これらの開催により、参加者等の相互理解が図られるとともに開催地域には大きな経済波及効果をもたらされています。

感謝状贈呈式では、達増知事から小川学長へ感謝状が贈呈



感謝状を受け取る小川学長

され、その後の懇談で「(経済的な

効果以外にも) 観光関係者にとっては、全国各地の目利きの方々に意見をいただける機会となるので、非常にありがたいことです。今後も岩手県の主力産業としていただきたい」と達増知事が感謝の言葉を述べられました。

岩手県商工労働観光部の計算によると、平成22年度(10月初旬まで)の本学コンベンション招致だけでも参加見込み人数は19,470人に上り、本県経済に対して約25億6,500万円の経済効果が発生していると推定されています。



遠藤 重厚 救急医学講座教授が 救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞

本学救急医学講座の遠藤重厚教授は、永年にわたり救急医療に貢献してきた功績が称えられ、平成22年度の救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞しました。

遠藤教授は、岩手県高度救命救急センター長として本県における救急医療の砦を支えるとともに、地域に密着した救急医療システムを確立させ、災害医療分野においてはDMAT(災害医療派遣チーム)体制を構築するなど、本県の救急医療体制に大きく貢献してきました。

また、治療成績の向上に直結する各種研究に尽力し、国内の委員会・研究検証班員として活躍するなど、日本の救急医療発展にも大きく寄与しています。

遠藤教授の今後ますますのご活躍が期待されます。



遠藤 寛 歯科医師 第119回日本補綴歯科学会 学術大会 課題口演賞を受賞



歯学部歯科補綴学講座冠橋義歯補綴学分野大学院4年の遠藤寛歯科医師が、平成22年6月11日に東京で開催された日本補綴歯科学会学術大会において、課題口演賞を受賞しました。受賞演題は、「日中に生じるクレンチングは心理的要因に影響を受ける」です。

当分野では、口腔悪習癖の一つであるブラキシズム(歯軋り)について研究を進めており、中でも日中に生じるクレンチング(くいしばり)の発生に関して筋電図学的に明らかにしてきました。今回の研究結果から、クレンチングまたは心理的要因が関与する顎機能障害(顎関節症)の病態解明へとつながっていくことが期待されます。

平成23年度入学試験日程 (岩手医科大学)

医学部	推薦入学試験		一般入学試験		編入学試験	
	一般推薦	地域枠特別推薦	一次試験	二次試験	一次試験	二次試験
募集人員	20名	15名	85名		5名程度	
出願期間 (消印有効)	平成22年10月25日(月)～ 平成22年11月4日(木)		平成22年12月6日(月)～ 平成23年1月5日(木)		平成23年2月21日(月)～ 平成23年2月27日(日)	
試験期日	平成22年11月13日(土)		平成23年1月19日(水)	平成23年2月2日(木)	平成23年3月7日(月)	平成23年3月17日(木)
試験場	岩手医科大学矢巾キャンパス		盛岡・東京・大阪・札幌	盛岡・東京	岩手医科大学内丸キャンパス	
試験方法	書類審査・小論文・面接 適性検査・基礎学力試験		学科試験(外国語・ 数学・理科2科目) 小論文・適性検査	面接	学科試験(生命科学 全般)・小論文	面接
合格者発表日	平成22年11月19日(金)		平成23年1月26日(水)	平成23年2月5日(土)	平成23年3月11日(金)	平成23年3月23日(木)

歯学部	推薦入学試験				
	一般推薦(前期)	指定校	同窓生	一般推薦(中期)	一般推薦(後期)
募集人員	15名程度		若干名	若干名	若干名
出願期間 (消印有効)	平成22年10月25日(月)～ 平成22年11月4日(木)			平成23年2月1日(火)～ 平成23年2月26日(土)	平成23年2月28日(月)～ 平成23年3月20日(日)
試験期日	平成22年11月13日(土)			平成23年3月4日(金)	平成23年3月26日(土)
試験場	岩手医科大学矢巾キャンパス			岩手医科大学 内丸キャンパス	岩手医科大学 内丸キャンパス
試験方法	書類審査・小論文・面接				
合格者発表日	平成22年11月19日(金)			平成23年3月9日(水)	平成23年3月28日(月)

歯学部	一般入学試験			編入学試験		
	前期	中期	後期	前期	中期	後期
募集人員	30名	5名程度	若干名	若干名	若干名	若干名
出願期間 (消印有効)	平成22年12月20日(月)～ 平成23年1月19日(木)	平成23年2月1日(火)～ 平成23年2月26日(土)	平成23年2月28日(月)～ 平成23年3月20日(日)	平成22年10月25日(月)～ 平成22年11月4日(木)	平成23年2月1日(火)～ 平成23年2月26日(土)	平成23年2月28日(月)～ 平成23年3月20日(日)
試験期日	平成23年1月28日(金)	平成23年3月4日(金)	平成23年3月26日(土)	平成22年11月13日(土)	平成23年3月4日(金)	平成23年3月26日(土)
試験場	盛岡・東京・大 阪・福岡・仙台	盛岡・東京	盛岡・東京	岩手医科大学 矢巾キャンパス	岩手医科大学内丸キャンパス	
試験方法	学科試験(外国語・数学・理科1科目・国語(4教科から3 教科選択))・面接			小論文・面接		
合格者発表日	平成23年2月5日(土)	平成23年3月9日(水)	平成23年3月28日(月)	平成22年11月19日(金)	平成23年3月9日(水)	平成23年3月28日(月)

薬学部	推薦入学試験						
	一般推薦(前期)	指定校	同窓生子女	帰国子女	社会人	一般推薦(中期)	一般推薦(後期)
募集人員	75名程度		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名
出願期間 (消印有効)	平成22年10月25日(月)～平成22年11月4日(木)				平成23年2月1日(火)～ 平成23年2月26日(土)	平成23年2月28日(月)～ 平成23年3月20日(日)	
試験期日	平成22年11月13日(土)				平成23年3月4日(金)	平成23年3月26日(土)	
試験場	岩手医科大学矢巾キャンパス				岩手医科大学 内丸キャンパス	岩手医科大学 内丸キャンパス	
試験方法	書類審査・小論文または化学I(同窓生・社会人・帰国子女は化学Iに限る)・面接						
合格者発表日	平成22年11月19日(金)				平成23年3月9日(水)	平成23年3月28日(月)	

薬学部	一般入学試験		
	前期	中期	後期
募集人員	70名	10名程度	若干名
出願期間 (消印有効)	平成22年12月20日(月)～ 平成23年1月19日(木)	平成23年2月1日(火)～ 平成23年2月26日(土)	平成23年2月28日(月)～ 平成23年3月20日(日)
試験期日	平成23年1月28日(金)	平成23年3月4日(金)	平成23年3月26日(土)
試験場	盛岡・東京・大阪・札幌・ 仙台・秋田・青森	盛岡・東京	盛岡・東京
試験方法	学科試験(理科1科目必修・外国語・数学・国語(3教科から2教科選択))		
合格者発表日	平成23年2月5日(土)	平成23年3月9日(水)	平成23年3月28日(月)

平成23年度入学試験日程 (岩手医科大学歯科衛生専門学校、岩手医科大学歯科技工専門学校)

歯科衛生 専門学校	推薦入学試験	一般入学試験		社会人入学試験	
		一期試験	二期試験	一期試験	二期試験
募集人員	40名程度	40名程度		若干名	
出願期間 (必着)	平成22年10月1日(金)～ 平成22年10月21日(木)	平成22年12月22日(水)～ 平成23年1月20日(木)	平成23年2月10日(木)～ 平成23年2月25日(金)	平成22年10月1日(金)～ 平成22年10月21日(木)	平成22年12月22日(水)～ 平成23年1月20日(木)
試験期日	平成22年10月23日(土)	平成23年1月22日(土)	平成23年3月1日(火)	平成22年10月23日(土)	平成23年1月22日(土)
試験場	岩手医科大学歯科衛生 専門学校	岩手医科大学歯学部4 階第1講義室	岩手医科大学歯科衛生 専門学校	岩手医科大学歯科衛生 専門学校	岩手医科大学歯学部4 階第1講義室
試験方法	基礎学力考査(現代文・ 小論文(作文))・面接	学科試験(現代文・小論文(作文))・面接		学科試験(現代文・小論文(作文))・面接	
合格者発表日	平成22年10月29日(金)	平成23年1月28日(金)	平成23年3月7日(月)	平成22年10月29日(金)	平成23年1月28日(金)

歯科技工 専門学校	推薦入学試験	一般入学試験	
		一期試験	二期試験
募集人員	10名程度	12名	25名
出願期間 (必着)	平成22年10月19日(火)～ 平成22年11月19日(金)	平成22年12月21日(火)～ 平成23年1月21日(金)	平成23年2月22日(火)～ 平成23年3月8日(火)
試験期日	平成22年11月20日(土)	平成23年1月22日(土)	平成23年3月9日(水)
試験場	岩手医科大学歯科技工専門学校(岩手医科大学歯学部内)		
試験方法	適性・ワイヤー工作・模型彫刻・基礎学力考査・面接		
合格者発表日	平成22年11月26日(金)	平成23年1月28日(金)	平成23年3月14日(月)

岩手医科大学募金状況報告

● 総合移転整備事業募金 ～皆様のご厚志により支えられています～

平成21年6月から始めました岩手医科大学総合移転整備事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

皆様のご厚志は、大学発展の大きな原動力となるものであり、本事業の早期達成のため有効に活用させていただいております。

今後とも関係各方面からの格別なるご協力・ご支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は5回目の御芳名紹介です。(平成22年7月1日～平成22年8月31日)

※御芳名及び寄付金額は、掲載を希望されない方については掲載していません。

会社・法人等 (5件)

<1,000,000円>

医療法人晃生会 近藤医院(山田町)
医療法人苔米地レディースクリニック
(青森県八戸市)

<御芳名のみ掲載>

有限会社ヤマダプランニング(盛岡市)
第一開明株式会社(太陽日酸グループ)
(盛岡市)

医療法人社団弘潤会(静岡県伊東市)
(受付順、敬称略)

個人 (12件)

<5,000,000円>

大堀 勉 (役員)

<500,000円>

主陵会広島県支部

瀬川 忠吉 (専18)

<100,000円>

永塚 健 (医30)

藤井 勲 (教職員)

林 宏明 (教職員)

<御芳名のみ掲載>

嶋村 正 (教職員)

作山 正美 (教職員)

別府 高明 (教職員)

佐藤 泰生 (教職員)

伊藤 浩信 (医36)

浅野 恵美子 (医30)

(受付順、敬称略)

これまでの募金累計額

区分	申込件数	募金金額(円)
主陵会	315	171,965,000
在学生ご父母	131	57,020,000
役員・名誉教授	26	19,610,000
教職員	86	11,235,000
在学生	1	100,000
一般	68	89,660,000
合計	627	349,590,000

(平成22年8月31日現在)



シリーズ

職場めぐり

No.64



薬学部

臨床医化学講座

臨床医化学講座は、平成19年4月に教授の那谷が東北大学から、翌年4月に大橋准教授が大阪大学から、さらにその翌年4月には高橋助教とNausheen 助教が東北大学から赴任し、現在の構成となっています。臨床医化学講座では主に医療



薬学系の講義・実習を担当しております。研究面ではインスリンを産生・分泌する膵β細胞の機能、膵β細胞の再生・増殖を促進するReg (Regenerating gene) 蛋白質に関する研究、酵母を用いた遺伝学的解析による抗真菌剤や抗うつ剤などの作用機構について研究を進めています。

当講座は、私が医学部、大橋准教授は薬学部、高橋助教は農学部、Nausheen 助教は理学部と4名とも出身学部が異なっており、それぞれの特長を教育・研究に生かしていきたいと思っています。

薬学部が発足してから3年半、まだまだ発展途上ではありますが教員4名が力を合わせて頑張っていますので、ご支援よろしくお願い致します。
(教授 那谷 耕司)

看護部 (中8階)

中病棟8階は救急科・心腎内分泌科・糖尿病代謝内科・睡眠科・感染病床・共通ベッドを持つ68床の混合病棟です。これまで最高13科の患者さんを受け入れ、主科以外の病棟であっても患者さんが安心して治療が受けられるよう看護しています。

混合病棟のため医師の出入りも多く、急患・検査・治療が重なり多忙を極めていますが、空床がある限り、スタッフは「いつでもどうぞ」という気持ちを心がけています。

昨年から新型インフルエンザが流行し当科でも多くの患者さんを受け入れましたが、スタッフの感染に対する適切な対応によりアウトブレイクが

なかったことは高く評価できます。混合病棟ではありますが、患者さんには「この病棟に入院してよかった」と思われる病棟を目指しています。

(看護師長 立花 正子)



投書箱から



院内に設置している投書箱に患者さんからお手紙が寄せられましたのでご紹介します。(なお、紙面の都合により文面を一部省略しました。)

外来へ
通院されている
患者さんから

外来に転じ、早くも半年が過ぎ、お陰様で順調に経過しているとのことと安心の一言です。それはそれとして、難聴の持病のため、名前を呼ばれても呼ぶ人の声の個性によって聞き難いことが多く、担当の方々にも迷惑をお掛けしていると思います。ところが、先月より採血室の呼び出し方法が改善され、本当に助かりました。ちょっとした工夫で変化できることですが、実際は中々そうは行きませんことと理解しています。普段から気をつけて物事を見ている姿勢が必要です。貴医院の職員方の日々の心構えがうかがえる一件です。

この度の初めての手術と入院。手術はもちろん、その後のケアなどへ不安を抱く私に医師と看護師は一生懸命（の対応）で感謝するばかりです。

手術前に於ける各セクションのオリエンテーション、手術後のサポート……全てが完璧だったと思います。手術後に苦しみ私に、懸命に声をかけつつ、見守り対応してくれた夜勤職員の方々。私の疑問や悩みに忙しいにも関わらず耳を傾け、私の不安を明るい笑顔と笑いで和ませてくれた医師の方々、本当にありがとうございました。

高度な医療設備が整ったこの場所は、これからもどんどん多くの人々を助けることと思います。岩手の中核にそびえたつ岩手医大。私達、岩手人の誇りです。今後の新人育成及び有名な医師が増えるよう一県民として見守っています。

産婦人科病棟へ
入院の
患者さんから

岩手医科大学共済会 からのお知らせ

『宿泊施設利用費用の補助額を引き上げました』

岩手医科大学共済会では、会員が健康の保持等を目的として旅行し、宿泊施設を利用したときの宿泊費用補助を行っています。

この度、より一層の利用促進のため補助額の引き上げを行いました（表参照）。

補助の申請手続き等、詳細は人事職員課 職員・厚生係（内線3234・3235）までお問い合わせ下さい。

引き上げ後	引き上げ前
3,000円/1人	2,000円/1人
平成22年4月1日以降利用分より適用	

[注] 補助は1年度につき1回です。

第78回大学報編集委員会

日 時：平成22年10月14日(木)午後4時～午後5時

出席委員：大堀委員長、山崎、影山、松政、齋野、藤本、佐藤、千田、佐々木(光)、佐々木(さ)、米澤、赤松、岩動、武藤、野里
欠席委員：佐々木(忠)、中島、小山、佐々木(志)

編集後記

矢巾町自然散策めぐり第2弾として、近隣の大ヶ生地域に出向き（中島・小笠原・小山）、自然と人々の温かさに包まれた平和な果樹農村地域で、樹木、廃坑、閉校跡、ハイキングコースなど、自然と向き合うことは自分を感じることにつながることを実感した今回の取材でした。この大学報を、万寿坑を長年護っているおばあちゃんに渡すのが楽しみです。（編集委員 小山 薫）

岩手医科大学報 第409号

発行年月日 平成22年10月28日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画課

盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111 (内線7022)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp



今回は矢巾キャンパスより東方に車で約15分、盛岡市の一番南に位置し、縄文のロマンを感じる閑かな大ヶ生（おおがゆう）地域から、瀧源寺（りゅうげんじ）境内にそびえる樹齢約170年、高さ22m、幹囲3.5m、国の指定天然記念物の“シダレカツラ”と乙部川渓流をわずかに入り、今では廃坑となっている“大ヶ生金山万寿坑”（おおがゆうきんざんまんじゅこう）を紹介します。

瀧源寺（りゅうげんじ）のシダレカツラ ～ 紅葉・黄葉・昂揚の季節です～

約400年前、瀧源寺の開祖が早池峰山麓で発見、移植、一度伐採後、芽吹き成長したものであり、元来、カツラの木は直立型の枝を生じるといわれ、学術上貴重なもので大正13年に国の天然記念物に指定されました。また、傍を流れる乙部川では渓流釣りも楽しめます。



<周辺地図>



大ヶ生金山万寿坑（おおがゆうきんざんまんじゅこう） ～ 静寂神秘の世界への誘い～

岩手県内においてアイヌ語源に由来する地名「岩鷲山（岩手山）」、「姫神山」、他が点在する理由は、4世紀前半頃に北東北で成立していた“えみし社会”（縄文人と縄文系弥生人の子孫の社会）でアイヌ語系の言葉が使われていたことによるようです。

大ヶ生（おおがゆう）は「オ・カイ・プ」、アイヌ語で「山から流れ出る川」の意味があります。大ヶ生金山は明治36年から年間83kgもの金、500kgの銀を産出し、第二次大戦とともに廃坑となるまで全国でも重要鉱山として隆盛をきわめていました。現在でも、見学者は120m奥まで入坑することができます。鉱水が湧き、坑内は年間を通じて10～13℃、湿度80%以上を保ち、固い岩盤に包まれた異空間、静寂神秘の世界へと誘ってくれます。



←坑内の様子
入口前→

